

遊び場面におけるリーダーシップに関する研究

—— 仲間集団や学校生活に及ぼす影響 ——

堺 賢 治

(保健体育研究室)

(平成10年4月30日受理)

A Study of Leadership in Play Place

— Effect on Peer Group and School Life —

Kenji SAKAI

I. 序 論

最近、大学に入学した学生を観察すると、以前の学生に比べて、規範を守らない、人間関係が下手である、自主性・創造性に欠ける点などが観察される⁽¹⁾。この現象は子どもたちにもあてはまる。このような現象が出てきた背景の一つとして、子どもたちの遊びが変化したことがあげられる。遊びを通して得られた社会性や自主性・自発性等が遊びの衰退によって子どもたちにあまり見られなくなり、そのまま成長したものと思われる。

また、子どもたちの危機を指摘した「子どものからだは蝕まれている」⁽²⁾「子どものこころは蝕まれている」⁽³⁾という子どもの身体的・精神的側面が問題にされているが、今問題なのは子どもの社会的側面ではなからうか。中でも特に問題なのは、子どものリーダーシップに関することである。体育の時間にリーダーになる人がいない。学級委員長選出のさい、本当にリーダーシップの優れた人がならない⁽⁴⁾ことはこれからの教育にとって問題であろう。そのような状況の中で、遊びを通して獲得されるリーダーシップは上記の問題を解決する一つの方法であると思われる。

そこで、本研究は子どもの遊び場面におけるリーダーシップに視点をあわせ、遊び場面のリーダーシップが仲間集団や学校の生活場面におけるリーダーシップにどのような影響を及ぼしているかを探求することを目的にした。

II. 方 法

調査対象：愛媛県松山市内の小学校の5年生 469名

調査期間：1995年12月

調査方法：質問紙による配票調査

回収率：有効回収数 439名 有効回収率 93.6%

分析の視点

リーダーシップには、目標達成機能と集団維持機能とがある。それに基づき、子どもたちの遊び場面に焦点を合わせ、次のような調査内容を作成した。なお各場面において①～⑨に書いてあるものは目標達成機能に関する質問、⑩～⑯に書いてあるものは集団維持機能に関する質問である。

- ①何をして遊ぶか、自分で言い出して決める。
- ②遊びのルールを自分が進んで決める。
- ③遊びに行くときに友達をたくさん誘う。
- ④遊びが不得意な子には遊び方を教える。
- ⑤場所や用具によって、遊びや遊び方を変える。
- ⑥遊びを切り上げるときやかたづけのときに、みんなに呼びかける。
- ⑦誰かがけがをしたときにはすぐに対応できる。
- ⑧他の遊びのグループに対して、自分たちの遊びに誘う。
- ⑨新しい遊びを考える。
- ⑩誰とでも仲良く遊ぶことが出来る。
- ⑪遊び方を決めるとき、反対している人を何とかして説得する。
- ⑫けんかになったら、すぐに止めに入って仲直りさせようとする。
- ⑬ルールを決めるときは、なるべくみんなに意見を聞いてまとめる。
- ⑭友達が失敗したときにははげましの声をかける。
- ⑮いつも楽しく遊べるように、みんなに気を配る。
- ⑯怒ったり泣いたりした子の話を聞いてあげる。

これらの質問に関しては、すべて4段階にランク付けされた回答（よくあてはまる…4点、ややあてはまる…3点、ややあてはまらない…2点、全然あてはまらない…1点）を用意した。

上記のすべての回答を合計したのから、得点が51点を遊び場面でのリーダーシップのある群（以下上位群とする）とし、得点が39点以下を遊び場面でのリーダーシップがない群（以下下位群とする）とした。

合計得点51点以上 N=118 (26.9%) …上位群

合計得点40～50点 N=220 (50.1%)

合計得点39点以下 N=101 (23.0%) …下位群

Ⅲ. 結果及び考察

1. 性 別

表1は性別におけるリーダーシップの有無をあらわしたものである。上位群では、男子の44.9%に対し女子は55.1%、下位群では男子の67.3%に対し女子は32.7%であり、遊び場面のリーダーシップにお

表1 性別 (%)

項 目	上位群	下位群	合 計
男	44.9	67.3	53.3
女	55.1	32.7	46.7

P < 0.01 (χ^2 検定, 以下同じ)

いては女子の方が高いといえる。「子どもの遊びと仲間集団に関する研究—リーダーシップを中心に—」⁽⁴⁾によれば、学校生活や遊びの中では、男子の方がリーダーシップ能力が高い傾向がみられた。しかしながら、今回の調査では女子の方がリーダーシップ能力が高かった。この理由としては、女子に比べて男子がタテの遊び集団で昔のように遊ばなくなったことがあげられよう。別な言葉で言えば、男性文化の衰退、ひ弱な男性の出現といえよう⁽⁵⁾。

2. 遊びの現状

(1) 遊び時間

表2は平日の遊び時間をあらわしたものである。全体では、「1～2時間」が39.7%と最も多く、「2～3時間」の27.0%、「3～5時間」の15.6%と続いている。両群を比較すると、上位群では、「2～3時間」が多く、下位群では、「1～2時間」と「3時間以上」が多い傾向がみられ、下位群では遊んでいる子と遊んでいない子の分化がみられる。

表3は休日の遊び時間を示したものである。全体では、「3～5時間」が34.3%と最も多く、「5～7時間」の31.8%、「7時間以上」の17.4%と続いており、平日に比べよく遊んでいるといえる。両群を比較すると、ほとんど差はみられないが、「7時間以上」については、下位群の方がよく遊んでいる傾向がみられる。

表2 遊び時間 (平日) (%)

項目	上位群	下位群	合計
0分	8.5	3.0	4.3
1時間未満	12.8	12.0	11.4
1～2時間	30.8	39.0	39.7
2～3時間	32.5	21.0	27.0
3～5時間	14.5	21.0	15.6
5～7時間	0.9	3.0	1.8
7時間以上	0.0	1.0	0.2

N. S.

表3 遊び時間 (休日) (%)

項目	上位群	下位群	合計
0分	0.0	1.0	0.2
1時間未満	0.8	1.0	1.4
1～2時間	5.1	5.9	6.4
2～3時間	5.1	8.9	8.5
3～5時間	38.2	30.7	34.3
5～7時間	36.4	27.7	31.8
7時間以上	14.4	24.8	17.4

N. S.

(2) 遊び空間

表4は平日の遊び空間をあらわしたものである。全体では、「自分の家の中」や「友達の家の中」などの「中遊び」をしている子どもは48.1%にものぼり、約半数の子どもが中遊びをしている。また、「公園」「運動場」「空き地・原っぱ」など「外遊び」は22.8%、「家の庭」や「家のそば」など「家の周辺」は21.9%となっている。両群を比較すると、「中遊び」では上位群の39.1%に対し下位群の53.4%、「外遊び」では上位群の27.1%に対し下位群15.9%と、上位群は外遊び、下位群は中遊びの傾向がみられる。下位群は平日の遊び時間が多い者もいるが、その遊び空間は「家の中」が多いと予測される。

表5は休日の遊び空間を示したものである。全体では、「中遊び」が39.5%、「家の周

表4 遊び空間 (平日) (%)

項目	上位群	下位群	合計
公園	16.1	9.9	13.9
運動場	3.4	4.0	5.0
空き地, 原っぱ	7.6	2.0	3.9
家のそば	18.6	20.7	18.5
家の庭	5.1	4.0	3.4
友達の家の中	16.1	14.9	15.9
自分の家の中	23.0	38.5	32.2
その他	5.9	5.0	5.4
無回答	4.2	1.0	1.8

P < 0.05

辺」が20.0%、「外遊び」が32.7%であり、平日・休日とも「中遊び」を行っている者が多いことがわかる。しかしながら、「外遊び」をしている子どもは1割近く増えており、遊び時間の増加と相まってよく遊んでいるといえる。両群を比べると、上位群では「外遊び」35.6%、「家の周辺」19.5%、「中遊び」35.6%、下位群では「外遊び」27.8%、「家の周辺」18.5%、「中遊び」41.5%であり、あまり差はみられない。

(3) 遊び仲間

表6は遊び仲間の人数をあらわしたものである。全体では、「3～4人」で遊んでいる者は58.3%と最も多く、「2人」の18.2%、「5～9人」の17.3%と続いており、多人数で遊ぶ子どもは少ない。両群を比較すると、上位群では「5人以上」で遊んでいる子どもが18.7%いるのに対して、下位群では13.9%となっており、上位群の方が多人数で遊んでいる傾向がみられる。また、下位群では「1人」で遊んでいる遊び相手のいない子どもが11.9%もみられ、問題をはらんでいるといえる。

(4) 遊びの種類

今一番よくしている遊びの種類について、「活動の大きい外遊び」「活動の小さい外遊び」「活動の大きい中遊び」「活動の小さい中遊び」にわけてたずねると、「活動の小さい中遊び」が41.7%と最も多く、次に「活動の大きい外遊び」の33.7%、「活動の小さい外遊び」の17.3%と続いている。遊び空間において「中遊び」が一番多いことと同じ結果が出ている。両群を比較すると、上位群では「活動の大きい外遊び」が43.3%と最も多いのに対し、下位群では「活動の小さい中遊び」が55.3%と最も多い。下位群では遊び時間において上位群よりもよく遊んでいる傾向がみられるにも関わらず、それは室内における少人数の遊びが多いものと推察される。つまり、遊び場面でリーダーシップがある子どもはない子どもより、よく外で体を動かす遊びをしているといえる。

(5) 活動集団

表8は多人数でする遊び(ソフトボール、サッカー、ドッジボールなど)のために、あまり親しくない子どもと遊んだことをた

表5 遊び空間 (休日) (%)

項 目	上位群	下位群	合 計
公 園	25.5	16.8	20.7
運動場	1.7	4.0	3.2
空き地, 原っぱ	8.4	7.0	8.8
家のそば	15.3	16.8	17.3
家の庭	4.2	2.0	2.7
友達の家の中	18.7	14.9	18.5
自分の家の中	16.9	26.6	21.0
その他	7.6	11.9	7.3
無回答	1.7	0.0	0.5

N. S.

表6 遊び仲間 (%)

項 目	上位群	下位群	合 計
1人	0.8	11.9	4.3
2人	21.2	18.8	18.2
3～4人	58.5	54.4	58.3
5～9人	15.3	11.9	17.1
10人以上	3.4	2.0	1.6
無回答	0.8	1.0	0.5

P < 0.01

表7 遊びの種類 (%)

項 目	上位群	下位群	合 計
活動の大きい外遊び	43.3	23.8	33.7
活動の小さい外遊び	19.5	14.9	17.3
活動の大きい中遊び	4.2	3.0	4.8
活動の小さい中遊び	32.2	55.3	41.7
無回答	0.8	3.0	2.5

P < 0.01

表8 活動集団 (%)

項 目	上位群	下位群	合 計
よく遊ぶ	17.8	5.9	10.9
ときどき遊ぶ	61.0	50.6	61.7
ほとんど遊ばない	17.8	35.6	23.5
全然遊ばない	3.4	7.9	3.9

P < 0.001

ずねたものである。このような遊び集団を活動集団⁽⁶⁾というが、その経験をみると、「よく遊ぶ」10.9%、「ときどき遊ぶ」61.7%、「ほとんど遊ばない」23.5%であり、ときどき活動集団に属して遊んでいる子どもは多くみられるが、活動集団に属してよく遊んでいる子どもは少数である。両群を比較すると、「よく遊ぶ」「ときどき遊ぶ」を合わせると上位群は78.8%、下位群は56.5%であり、遊び場面でのリーダーシップがある子どもは、ない子どもよりも活動集団で遊ぶ場合が多いといえる。

(6) 異年齢集団

表9は自分より上の学年の子どもと、表10は自分より下の学年の子どもとこれまでどのくらい遊んだかをたずねたものである。全体では、上級生と「よく遊んだ」者は27.6%であるのに対して、下級生と「よく遊んだ」者は41.6%と下級生とよく遊んでいることがわかる。両群を比較すると、上級生と「よく遊んだ」者は上位群では34.6%であるのに対して、下位群では14.9%である。また、下級生と「よく遊んだ」者は、上位群では50.0%であるのに対し、下位群では35.0%である。つまり、上位群の方が異年齢集団を作りやすいことがわかる。

遊び場面でのリーダーシップのある子どもの方が上級生や下級生とよく遊んでいるといえる。この理由としては、他人に指示や命令されて動いたり、他人に指示や命令をして動かしたりしたことがある子どもの方が、その経験をもとに遊び場面でのリーダーシップを発揮しているものと思われる。

(7) 遊ぶときのけんか

表11は遊ぶときのけんかについてたずねたものである。全体では、「たまにけんかや言い合いをするが、ほとんどしない」と答えた子どもが62.4%と最も多く、次いで「ときどきけんかや言い合いをする」の24.6%と続いている。昔の子どもはけんかをして仲良くなることがみられたが、最近の子どもはけんかをする人間関係が壊れるためにけんかをしない子どもが増えているといえる。両群を比較すると、差はみられない。

表12はけんかや言い合いをした時の仲直りの方法をたずねたものである。全体では、「自分からあやまる」と答えた子

表9 上級生との遊び経験 (%)

項目	上位群	下位群	合計
よく遊んだ	36.4	14.9	27.6
ときどき遊んだ	51.7	46.5	46.9
あまり遊ばなかった	10.2	27.7	18.9
全然遊ばなかった	1.7	10.9	6.6

P < 0.001

表10 下級生との遊び経験 (%)

項目	上位群	下位群	合計
よく遊んだ	50.0	35.6	41.5
ときどき遊んだ	35.6	37.6	38.7
あまり遊ばなかった	13.6	22.8	17.5
全然遊ばなかった	0.8	4.0	2.3

N. S.

表11 けんかの回数 (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくする	4.2	5.9	4.6
ときどきする	23.7	29.7	24.6
たまにする	64.5	55.5	62.4
したことがない	7.6	8.9	8.4

N. S.

表12 仲直りの方法 (%)

項目	上位群	下位群	合計
自分からあやまる	61.0	42.6	50.8
むこうがあやまるまであやまらない	5.9	7.9	5.5
友だちをはさんで仲直り	5.1	15.8	11.4
そのままにする	10.2	19.8	13.9
その他	11.0	5.0	10.7
非該当	6.8	8.9	7.7

P < 0.05

どもが50.8%と最も多く、次いで「そのままにする」の13.9%、「友だちをはさんで仲直りをする」の11.4%と続いており、約半数の子どもたちが自分で解決をしている。両群を比べると、上位群は「自分からあやまると」と回答したものが多く、遊び場面のリーダーシップのある子どもは、けんかになっても人間関係の作り方を知っており、積極的に働きかけているといえる。一方、下位群は「そのままにする」「友だちをはさんで仲直りをする」と回答したものが多く、遊び場面でのリーダーシップのない子どもは、他力本願的な傾向が見受けられる。

3. 仲間集団

(1) 学校の友達

表13は学校の友達の中で悩みを話せる友達の人数をたずねたものである。全体では、「0人」が27.0%と最も多く、次いで「2人」の23.5%、「3～4人」の22.1%と続いており、「5人以上」の人は少ない。両群を比較すると、「0人」と回答した者は上位群の17.8%に対し、下位群は47.4%と学校の友達の中にも相談できない人が約5割も存在し、居場所のない子どもたちが増えている。

表14はよく遊ぶ友達の人数を聞いたものである。全体では、「5～9人」が33.7%と最も多く、次いで「10人以上」の26.9%、「3人～4人」の22.3%と続いており、約6割の子どもたちが「5人以上」で遊んでいる。両群を比較すると、「5人以上」で遊んでいる者は上位群の66.8%に比べて下位群では49.5%と上位群の方がよく遊んでいる。

表15は話す程度の友達の人数をあらわしたものである。全体では、「10人以上」46.9%と最も多く、「5～9人」の20.3%、「3～4人」の13.4%と続いている。悩みを話せる友達、よく遊ぶ友達に比べて話す程度の表面的な付き合いの友達は多い。両群を比較すると、「10人以上」の話す程度の友達について、上位群では50.8%、下位群では38.7%と上位群の方が多い。下位群では「0人」と答えた者が14.9%も存在し、問題を抱えているといえる。

(2) 同学年の近所の友達

表16は同学年の近所の友達の中で悩みを話せる友達の人数をたずねたものである。全体では、「0人」が59.4%と最も多く、次いで「1人」の21.9%、「2人」の12.1%と続いており、約6割の人が相談相手がいない。両群を比較すると、「0人」と回答した者は上位群の48.3%に対し、下位群は78.2%と非常に多い。

表17はよく遊ぶ友達の人数を聞いたものである。全体では、「0人」が38.1%と最も多く、

表13 学校の友達（悩みを話す） (%)

項目	上位群	下位群	合計
0人	17.8	47.4	27.0
1人	19.5	14.9	14.6
2人	23.7	19.8	23.5
3～4人	22.0	11.9	22.1
5～9人	13.6	5.0	10.3
10人以上	3.4	1.0	2.5

P < 0.01

表14 学校の友達（よく遊ぶ） (%)

項目	上位群	下位群	合計
0人	0.0	5.0	1.6
1人	2.5	9.9	5.2
2人	9.3	17.8	10.3
3～4人	21.4	17.8	22.3
5～9人	36.3	33.7	33.7
10人以上	30.5	15.8	26.9

P < 0.001

表15 学校の友達（話す程度） (%)

項目	上位群	下位群	合計
0人	3.4	14.9	8.2
1人	4.2	5.9	4.1
2人	11.0	6.9	7.1
3～4人	15.3	15.8	13.4
5～9人	15.3	17.8	20.3
10人以上	50.8	38.7	46.9

P < 0.05

表16 同学年に近所の友達（悩みを話す）
（%）

項目	上位群	下位群	合計
0人	48.3	78.2	59.4
1人	24.6	17.8	21.9
2人	15.3	4.0	12.1
3～4人	9.3	0.0	5.2
5～9人	2.5	0.0	1.4
10人以上	0.0	0.0	0.0

P<0.001

表17 同学年の近所の友達（よく遊ぶ）
（%）

項目	上位群	下位群	合計
0人	32.3	48.4	38.1
1人	16.1	24.8	19.1
2人	22.9	13.9	17.5
3～4人	21.1	9.9	16.6
5～9人	6.8	3.0	7.3
10人以上	0.8	0.0	1.4

P<0.05

次いで「1人」の19.1%、「2人」の17.5%と続いており、約4割の子どもたちが遊び相手がいない。両群を比較すると、「2人以上」で遊んでいる者は上位群の51.6%に比べて下位群では26.8%と上位群の方がよく遊んでいる。

表18は話す程度の友達の人数をあらわしたものである。全体では、「0人」が40.1%と最も多く、「1人」の23.3%、「2人」の13.9%と続いている。両群を比較すると、「2人以上」で話している者は上位群の38.9%に比べて下位群では18.9%と上位群の方がよく話している。

(3) 異学年の近所の友達

表19は異学年の近所の友達の中で悩みを話せる友達の人数をたずねたものである。全体では、「0人」が70.1%と最も多く、次いで「1人」の15.2%、「2人」の6.8%と続いており、同じ学年の近所の友達に比べて悩みを話す友達が少ない。両群を比較すると、「0人」と回答した者は上位群の62.7%に対し、下位群は86.1%であり、地域におけるタテの遊び集団が崩壊していることがわかる。

表20はよく遊ぶ友達の人数を聞いたものである。全体では、「0人」が37.7%と最も多く、次いで「1人」と「3～4人」の16.6%、「2人」13.4%と続いており、約4割の子どもたちが遊び相手がいない。両群を比較すると、「2人以上」で遊んでいる者は上位群の50.8%に比べて下位群では36.7%と上位群の方がよく遊んでいる。

表21は話す程度の友達の人数をあらわしたものである。全体では、「0人」が32.1%と最も多く、「3～4人」の18.2%、「2人」の16.9%、「1人」の16.2%と続いている。両群を比較すると、「2人以上」で話している者は上位群の54.2%に比べて下位群では38.7%と上位群の方がよく話してい

表18 同学年の近所の友達（話す程度）
（%）

項目	上位群	下位群	合計
0人	39.9	48.4	40.1
1人	21.2	32.7	23.5
2人	14.4	7.9	13.9
3～4人	12.7	5.0	11.6
5～9人	5.9	4.0	7.5
10人以上	5.9	2.0	3.4

P<0.05

表19 異学年の近所の友達（悩みを話す）
（%）

項目	上位群	下位群	合計
0人	62.7	86.1	70.1
1人	16.1	8.9	15.7
2人	10.2	1.0	6.8
3～4人	6.8	4.0	4.8
5～9人	3.4	0.0	2.1
10人以上	0.8	0.0	0.5

P<0.05

表20 異学年の近所の友達（よく遊ぶ）
（%）

項目	上位群	下位群	合計
0人	32.3	47.5	37.7
1人	16.9	15.8	16.6
2人	12.7	12.9	13.4
3～4人	20.3	14.9	16.6
5～9人	8.5	6.9	12.1
10人以上	9.3	2.0	3.6

P<0.01

る。

友達の種類と人数について、学校の友達、同学年の近所の友達、異学年の近所の友達について、それぞれ、悩みを話す、よく遊ぶ、話す程度に分けて聞いた結果、子どもは学校の友達を中心に仲間集団をつくっており、また同学年や異学年の近所の友達は少なく、異年齢集団が形成されにくくなっている。

両群を比較すると、学校の友達（悩みを話す、よく遊ぶ、話す程度）、同学年の近所の友達（悩みを話す、よく遊ぶ、話す程度）、異学年の近所の友達（悩みを話す、よく遊ぶ）については上位群の方が下位群よりも仲間集団が多く、差がみられ、異学年の近所の友達（話す程度）のみ差がみられなかった。また、すべての項目において上位群が下位群を上回り、遊び場面でのリーダーシップのある子どもは、どの集団においても友達を作ることが出来る子どもが多いと考えられる。

表21 異学年の近所の友達（話す程度）
(%)

項目	上位群	下位群	合計
0人	33.1	41.5	32.1
1人	12.7	19.8	16.2
2人	16.9	14.9	16.9
3～4人	18.6	13.9	18.2
5～9人	13.6	8.9	12.3
10人以上	5.1	1.0	4.3

N. S.

4. 学校生活場面におけるリーダーシップ

子どもたちは学校生活場面において、様々なリーダーシップ発揮の場面がある。そのような場面を想定し、次のような調査内容を作成した。

- ①委員会や係りの仕事を一生懸命する。
- ②一度始めたことは、三日ぼろずでなく続けることができる。
- ③そうじのとき、そうじをしない人に注意をする。
- ④わからないことがあるときには、わかるまで調べる。
- ⑤学校の成績は良いほうである。
- ⑥自習のとき、さわいでいる人に注意をする。
- ⑦学級会のときは自分の意見を積極的に発言する。
- ⑧いままで同級生や下級生を使って仕事をしたことがある。
- ⑨発表会の出し物などは自分が決めて進めていく。
- ⑩学級会のときにみんなの意見がたくさんでた後、その意見をまとめる。
- ⑪先生は自分をたよりにしていると思う。
- ⑫自分の発言によって全体がまとまる。
- ⑬みんなが先生におこられたとき、どのようにあやまるかみんなに言う。
- ⑭みんなが先生におこられたとき、じょうだんを言ってクラスを明るくしようとする。

表22～表35はその結果である。

表22 委員会や係りの仕事を一生懸命する (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくあてはまる	66.1	29.7	46.3
ややあてはまる	28.8	38.6	36.4
ややあてはまらない	3.4	26.7	15.7
全然あてはまらない	1.7	5.0	1.6

P < 0.001

表23 一度始めたことは、三日ぼろずではなく
続けることができる (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくあてはまる	44.9	17.8	28.2
ややあてはまる	37.3	27.7	36.1
ややあてはまらない	14.4	39.6	28.2
全然あてはまらない	3.4	14.9	7.5

P < 0.001

遊び場面におけるリーダーシップ

表24 そうじのとき、そうじをしない人に注意をする (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくあてはまる	52.5	11.9	27.8
ややあてはまる	33.1	33.7	35.7
ややあてはまらない	11.0	37.6	28.5
全然あてはまらない	3.4	16.8	8.0

P < 0.001

表25 わからないことがあるときには、わかるまで調べる (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくあてはまる	31.4	11.9	17.5
ややあてはまる	50.8	32.7	41.9
ややあてはまらない	16.1	43.5	35.1
全然あてはまらない	1.7	11.9	5.5

P < 0.001

表26 学校の成績は良いほうである (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくあてはまる	16.9	8.9	11.6
ややあてはまる	40.7	39.6	40.8
ややあてはまらない	31.4	29.7	32.1
全然あてはまらない	11.0	21.8	15.5

N. S.

表27 自習のとき、さわいでいる人に注意をする (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくあてはまる	27.1	5.0	12.3
ややあてはまる	31.4	20.8	29.4
ややあてはまらない	31.4	45.5	41.0
全然あてはまらない	10.1	28.7	17.3

P < 0.001

表28 学級会のときは自分の意見を積極的に発言する (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくあてはまる	11.0	11.9	14.1
ややあてはまる	38.2	10.9	25.5
ややあてはまらない	36.4	44.5	41.3
全然あてはまらない	14.4	32.7	19.1

P < 0.001

表29 いままで同級生や下級生を使って仕事をすることがある (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくあてはまる	14.4	6.9	11.2
ややあてはまる	21.2	10.9	18.7
ややあてはまらない	39.8	35.6	36.2
全然あてはまらない	24.6	46.6	33.9

P < 0.05

表30 発表会の出し物などは自分が決めて進めていく (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくあてはまる	14.4	5.9	8.0
ややあてはまる	28.0	5.9	20.5
ややあてはまらない	44.0	33.7	40.1
全然あてはまらない	13.6	54.5	31.4

P < 0.001

表31 学級会のときにみんなの意見がたくさんでた後、その意見をまとめる (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくあてはまる	7.6	3.0	4.6
ややあてはまる	28.0	10.9	17.8
ややあてはまらない	45.8	31.7	39.1
全然あてはまらない	18.6	54.4	38.5

P < 0.001

表32 先生は自分をたよりにしていると思う (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくあてはまる	8.5	5.9	5.7
ややあてはまる	31.3	5.9	16.6
ややあてはまらない	30.5	23.8	37.1
全然あてはまらない	29.7	64.4	40.6

P < 0.001

表33 自分の意見によって全体がまとまる (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくあてはまる	2.5	2.0	2.1
ややあてはまる	19.5	2.0	15.9
ややあてはまらない	59.4	27.7	44.2
全然あてはまらない	18.6	68.3	37.8

P < 0.001

表34 みんなが先生におこられたとき、どのようにあやまるかみんなに言う (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくあてはまる	4.2	2.0	3.2
ややあてはまる	38.1	3.0	17.1
ややあてはまらない	28.0	24.8	33.5
全然あてはまらない	29.7	70.2	46.2

P < 0.001

表35 みんなが先生におこられたとき、じょうだんを言ってクラスを明るくしようとする (%)

項目	上位群	下位群	合計
よくあてはまる	9.3	4.0	5.0
ややあてはまる	13.6	4.0	8.9
ややあてはまらない	28.0	11.9	24.1
全然あてはまらない	49.1	80.1	62.0

P < 0.001

表36 学校生活場面でのリーダーシップの自己評価

項 目	上位群	下位群	合 計	得点差
委員会・係りの仕事への意欲	90	73	82	17
始めたことに対する持続力	81	62	71	19
そうじの時の注意	84	60	71	24
わからないことへの探求心	78	61	68	17
学校の成績の良さ	66	59	62	7
自習の時の注意	69	51	59	18
学級会での発言	61	51	59	10
他人への指示と仕事の達成	56	45	52	11
発表会の出し物の決定	61	41	51	20
学級会の時のとりまとめ方	56	41	47	15
先生からの信頼度	55	38	47	17
自分の発言の有効性	51	34	46	17
先生に謝罪する時の統率力	54	34	44	20
先生に怒られた時の雰囲気作り	46	33	39	13

これらの質問に関しては、すべて4段階にランク付けされた回答（よくあてはまるとき…4点、ややあてはまるとき…3点、ややあてはまらないとき…2点、全然あてはまらないとき…1点）を用意した。そして得点に各項目のパーセントをかけ、それぞれの合計を4で割ったものが表36である。

全体では、得点の高い項目というのは、「委員会・係りの仕事への意欲」「始めたことに対する持続力」「そうじの時の注意」「わからないことへの探求心」などのリーダーとしての要素をみるためのもので、「そうじの時の注意」をのぞけば、これらは自分自身に対する働きかけである。一方、得点の低い項目は「先生に怒られた時の雰囲気作り」「先生に謝罪する時の統制力」「自分の発言の有効性」「学級会の時のとりまとめ方」などの集団や他者に対する働きかけに関するものである。

両群を比較すると、全ての項目において上位群の得点が下位群の得点より高くなっていることがわかり、遊び場面でのリーダーシップがある子どもは、ない子どもより、学校生活場面でもリーダーシップが発揮できる子どもが多いといえる。両群の得点差とみると、「そうじの時の注意」「発表会の出し物の決定」「先生に謝罪するときの統制力」などで20点以上の差がみられる。これらは強いリーダーシップをみる質問であり、上位群に比べると下位群は積極的なリーダーシップ行動ができない子どもが多いといえる。

しかしながら、「学校の成績の良さ」はあまり差がみられなかった。このことは、遊び場面のリーダーシップが学校生活場面のリーダーシップに影響を与えているにも関わらず、学校の成績の良いことが学級経営にあまり影響を及ぼしていない。裏を返せば、学級委員長に必ずしも成績の良い子がなっていないことなどがうかがわれ、昔に比べて現在の学級経営の難しさが推察される。

Ⅳ. 結 論

- (1) 女子の方が男子よりも遊び場面のリーダーシップが高い。
- (2) 遊びの三つの間（時間、空間、仲間）において、リーダーシップ能力の高い子ども（上位群）はリーダーシップ能力の低い子ども（下位群）に比べて遊び時間は少ない傾向が見られ

るが、より多くの仲間と外で活動性の大きい遊びをしている。

- (3) 活動集団で遊ぶ子どもは少ないが、リーダーシップ能力の高い子どもは、活動集団やタテ関係での遊びをよくしている。
- (4) 仲間集団について、リーダーシップ能力の高い子どもは、学校の友達、同学年の近所の友達、異学年の近所の友達のどれをとっても恵まれている。
- (5) 学校生活場面において、リーダーシップ能力の高い子どもは、「学校の成績の良さ」を除けば全ての生活場面において、リーダーシップを発揮している。

遊び場面のリーダーシップが学校生活場面のリーダーシップに影響を与えていることを考えると、学級経営にいろいろな問題が起こっている現状の改善のために子どもの遊びをもう一度考え直す必要がある。特に男子の子どもの現状は憂慮すべきである。

参 考 文 献

- (1) 日本子どもを守る会編 「子ども白書 1996年版」 草土文化 1996
- (2) 正木健雄編 「新版子どものからだは蝕まれている」 柏樹社 1990
- (3) 伊藤隆二編 「子どものころは蝕まれている」 柏樹社 1992
- (4) 堺賢治・宇野さおり 「子どもの遊びと仲間集団に関する研究 —リーダーシップを中心に—」 愛媛大学教育学部紀要 第I部 教育科学 第43巻 第1号 1996
- (5) マークス寿子 「ひ弱な男とフワフワした女の国日本」 草思社 1987
- (6) 住田正樹著 「子どもの仲間集団と地域社会」 九州大学出版会 1985 pp.126-127